

日時 令和5年6月27日（火）13:30-15:30

会場 環境省

Web会議室（Webex）

- 1 開会 (司会進行 群馬県衛生環境研究所)
- 2 開催の挨拶  
群馬県衛生環境研究所 所長 猿木 信裕 氏  
環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室 室長補佐 柴 里実 氏
- 3 令和4年度環境測定分析統一精度管理調査結果について  
一般財団法人日本環境衛生センター環境事業第二部 係長 梶 史生 氏
- 4 環境測定分析における留意点及び精度管理について
  - (1) 模擬水質試料（一般項目等）  
国立研究開発法人産業技術総合研究所エネルギー・環境領域  
環境創生研究部門環境計測技術研究グループ 上級主任研究員 中里 哲也 氏
  - (2) 土壌試料（金属等）  
環境省環境調査研修所 主任教官 藤森 英治 氏
  - (3) 模擬水質試料（PFOS等）  
麻布大学獣医学部獣医学科 公衆衛生学第1研究室 講師 杉田 和俊 氏
- 5 質疑応答
  - (1) 模擬排水試料（一般項目等）
    - Q1 事前質問①  
全燐の分析試料は、pH調整を要する強酸性であり、なおかつ発色妨害となる砒素が含まれる検体でした。本試料を全燐の試料としたねらいを教えてください。
    - A1（西尾専門員）  
硝酸酸性にしたのは分析対象としているカドミウム等の金属の濃度安定のためです。ただし、全燐分析を対象とした試料を採取する場合には、硝酸酸性とすることがないことから、一般的な試料の形態ではないと考えられます。  
また、試料中に砒素が含まれていたのは、砒素が分析対象物質であり、そのために添加したものです。

## Q2 事前質問②

基本精度管理調査の結果の整理において、公定法どおりの分析条件で出された結果と、公定法とは異なる分析条件で出された結果が同じ評価基準でしか見られていないことに疑問を感じます。公定法どおりの分析条件で行った結果に対する評価と、公定法及び任意の分析法で行った結果に対する評価の 2 本立てにしない理由は何かあるのでしょうか。

### A2 (事務局)

結果の評価は、部分的に任意の分析条件になっている場合（「その他」の条件等）について個別に解析を行っております。また、分析条件は数多くあり、分析法全体としてどの程度公定法通りになっているかを判断するのは難しいため、現在の解析方法となっております。選択した分析法の評価は参加機関の自己評価に委ねております。

## Q3 当日質問①

塩濃度が高い温泉水の分析時に、前処理が必要かどうかの判断材料はあるでしょうか。

### A3 (中里専門員)

①まずは共存物質がどの程度入っているか確認を行います。②次に、共存物質がターゲット分析を妨げてるかを確認します。（ターゲットの添加回収試験を行う。）

## (2) 土壌試料 (金属等)

質問等なし

## (3) 模擬水質試料 (PFOS 等)

### Q1 当日質問①

カラムの分離の悪さをもたらす原因は、カラムの長さでしょうか、劣化でしょうか。

### A1 (杉田専門員)

分離が悪い原因はカラムの長さも関係していますが、調査結果からカラムの劣化によるものだと考えています。

## (4) その他、全般

### Q1 (藤森専門員)

オンライン研修が増えてきましたが、研修で質問がなかなか出ないことがあります。オンライン形式の研修はどの程度なじみのものになっているのでしょうか。

### A1 (横浜市)

オンライン研修や会議を受ける機会がありますが、一方的に受けるものが多い印象です。Ⅱ型共同研究などでは、最初に顔合わせがあったため、比較的意見を出しやすいです。顔が見えない状況では意見を出しにくく感じます。

(藤森専門員)

Web 会議などで最初に顔を出して自己紹介をするというのも効果的と思われます。あらかじめ、参加者に必ずコメントを出してもらうようにすることで準備ができ、質問しやすくなるかもしれません。

Q2 (事務局)

環境調査研修所から、精度管理で使用した共通試料の余剰分の提供は可能でしょうか。

A2 (藤森専門員)

今年度に限らず、数年分はあります。ただし、水の資料は安定性が保証できないのでおすすめできません。共通試料 2 (土壌試料) の余剰分は、お問合せいただければ、今年度の試料に限らず過去のものも発送可能です。

## 6 閉会